

新シリーズ 『ピアノ音楽の楽しみ方』 (1)

”名曲の名演奏を聴き比べながら ピアノ音楽の歴史を学ぼう！”

《新シリーズの目的》

ライブにないレコード音楽の魅力は、一つの名曲に対し古今東西で録音された幾多の名演奏の聴き比べが可能ということであろう。

新シリーズの目的は、ピアノなど鍵盤楽器に限定して、音楽史におけるバロック期以降 各時期を代表する超有名曲を選んで 多くの名録音を

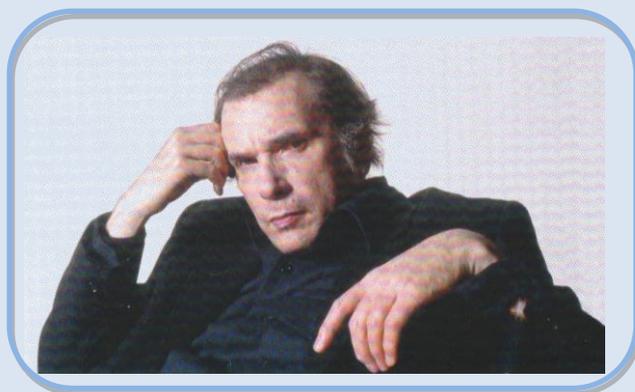
比較しながら、個々の演奏の違いのみではなくピアノ音楽がいかに発展してきたか、更にはその時代的特徴にもアプローチしてみようということです。どうかご期待下さい

《第一回の内容》

初めにバロック期を代表する鍵盤曲として J・S・バッハの「ゴールドベルグ変奏曲」を取り上げてみます。

20 世紀半ば グレン・グールドは、当時ほとんどのバッハ演奏に使用されていた鍵盤楽器ハープシコードに換えて ピアノで演奏し 而もこの曲の素晴らしさを全世界に認めさせました。今回は彼の新旧録音(1955 & 1981)を中心に ハープシコードによる演奏では W・ランドフスカ(1945)、K・リッター('58), G・レオンハルト('65), S・ロス('85), P・アンタイ('92),鈴木雅明(97), A・シュタイアー (2009)など、またグールド以降のピアノ演奏でも、P・ゼルキン('86), K・ジャレット ('89), Z・シャオ・メイ ('90), V・フェルツマン ('91), M・ペライア (2000), A・シフ(01) 更には最近バッハ演奏で売り出し中の若手ピアノ奏者たち、S・シェプキン('95), F・トリスターノ('01), M・シュタットフェルト('03), S・ディナースタイン('07) なども加えて 出来るだけ多くの演奏を聴き比べながら グールドの功績とともにバッハ音楽の本質も合わせ考えてみたいと思います。

以降、本シリーズでは 近代までの各時期における代表的な名曲を取り上げながら 同様のやり方で 10 回程度 楽しく比較・検証してみようと考えています。最後までお付き合いいただければ幸甚です。



日 時 / 6月22日(日) 13:30~15:30

場 所 / 久寺家近隣センター 多目的ホール

発表者 / 高橋 敏郎 シリーズ 全10回 (予定)

参加自由・入場無料

問い合わせ / 04-7184-3771 佐藤 <http://www.aafc.jp/>